

ネットワークアンケート ③1

糖尿病ネットワークを通して

医療スタッフに聞きました

Q. あなたは「低血糖」の知識や対処法について、ご存知ですか？

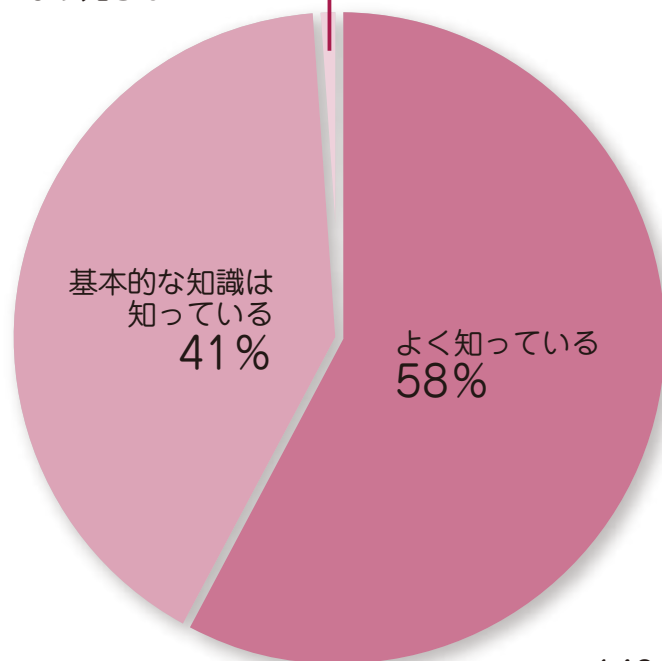
薬物療法を行う患者さんの多くが不安に感じている「低血糖」。厳格な血糖コントロールを行うほど、発作のリスクが伴うという悩ましいジレンマもありますが、知識や対策を備えていれば、患者さんは必要以上に心配せずに済むのかもしれませんが。今回は、低血糖の把握や対策の状況などを伺いました。

[回答数：医療スタッフ146名(医師23、看護師50、准看護師3、管理栄養士27、薬剤師25、臨床検査技師7、その他11。うち健康運動指導士3、日本糖尿病療養指導士52)、患者さんやその家族548名(病態/1型糖尿病241、2型糖尿病281、糖尿病境界型12、その他14、治療内容/食事療法366、運動療法283、飲み薬の服用154、インスリン療法 369/重複回答有)]

約6割が「よく知っている」、4割が「基本的な知識は知っている」との回答でした。職業別に見ると、「よく知っている」は、医師は87%、看護師は74%、管理栄養士は41%、薬剤師は36%と認知率が下がっていく傾向がみられました。低血糖に対する指導を、「どのような患者さんに指導しているか?」では、7割が「インスリン療法を行っている方」、6割が「SU薬などの血糖降下薬を処方している方」で、「SMBGを行っている方」は約4割、「合併症のある方」は約3割でした。

低血糖の把握については、85%が「患者さんとの会話や聞き取りの中から」、83%が

実は、あまり知らない1%



「自覚症状のあった患者さんからの報告から」、65%が「SMBGの記録から」とのことで、患者さんからの情報が手がりとなっていることが伺えます。しかし、SMBGの記録に低血糖の数値があっても自覚症状がなかったケースは、78%の医師が「多い」と回答。患者さんからの情報は、自覚症状を基にしている場合が多く、無自覚だった時や測定していない時間帯の把握など、管理や指導はなかなか難しいのが現状のようです。

自由記述では、「自覚症状の訴えのみであるため、本当に低血糖なのか疑わしい

ことがある’ ‘SMBGで確かめず、低血糖だと思って甘い物をよく食べる方や、低血糖への恐怖感で、血糖値を下げることに抵抗する方がいる’ ‘血糖コントロールを厳格に行いたいという意識が強い方は、低血糖を減らすのが難しい’ ‘SMBGが困難な高齢者で低血糖の症状が認識できない場合や、独居で周囲の協力が乏しい方に対する対策や指導方法に悩んでいる’ など、ご意見が寄せられました。

Q. 「低血糖」の知識や対処法を、どのような患者さんに指導していますか？

(複数回答可 n=146)

インスリン療法を行っている方	70%
SU薬などの血糖降下薬を処方している方	63%
「低血糖」について相談のあった方	62%
記録や報告で「低血糖」がみられた方	57%
基本的に糖尿病患者さん全員	46%
SMBGを行っている方	42%
自律神経障害、増殖網膜症、腎症など合併症のある方	31%
とくに行っていない	1%

Q. 患者さんの「低血糖」は、どのような情報から把握されることが多いですか？

(複数回答可 n=146)

患者さんとの会話、聞き取りの中から	85%
自覚症状のあった患者さんからの申告(報告)から	83%
SMBGの記録から	65%
その他	6%
とくに把握していない	1%